

P.	項目	誤	正
8	問 1-8 問題文の上から 3 行目の式の 右辺第 3 項	$m_2 l \dot{x} \dot{\theta} \sin \theta$	$m_2 l \dot{x} \dot{\theta} \cos \theta$
8	問 1-8 問題文の上から 4 行目の式の 右辺第 1 項	$\frac{1}{2} k \dot{x}^2$	$\frac{1}{2} k x^2$
22	問 2-13 問題文の上から 2 行目 右辺 第 1 項の分子	$\phi_{ri} \phi_{rl} F_i(\omega)$	$\phi_{ri} \phi_{rl}$
23	問 2-14 問題文の下から 2 行目	臨界減衰係数 \bar{c}_r	臨界減衰係数 \bar{c}_{cr}
121	問 7-14 文章中の文言 (赤字修正部)	<p>流体中に存在する構造物の振動解析を行う場合の注意事項として誤っている記述は次のうちどれか。</p> <p>① 流体中の構造物の場合、気中の場合に比べて一般的に固有振動数が低下し、減衰が増加する。</p> <p>② 流体中の構造物の場合、流体の影響を付加質量として考慮する評価が行われる。</p> <p>③ 流体中の複数の構造物は、流体を介して相互に連成する可能性がある。</p> <p>④ 流体中の構造物の場合、気中の場合に比べて、一般的に剛性が高くなり、固有振動数が増加する。</p>	<p>水などの液体中に存在する構造物の振動解析を行う場合の注意事項として誤っている記述は次のうちどれか。</p> <p>① 液体中の構造物の場合、気体中の場合に比べて一般的に固有振動数が低下し、減衰が増加する。</p> <p>② 液体中の構造物の場合、液体の影響を付加質量として考慮する評価が行われる。</p> <p>③ 液体中の複数の構造物は、液体を介して相互に連成する可能性がある。</p> <p>④ 液体中の構造物の場合、気体の場合に比べて、一般的に剛性が高くなり、固有振動数が増加する。</p>
197	問 7-14	流体中の構造物では、付加質量	液体中の構造物の場合、気体の

	文章中の文言 (赤字修正部)	によって見かけの質量が増加するため、固有振動数は低下する。 解答 ④	場合に比べて付加質量が大きくなるため、固有振動数が低下する。 解答 ④
※	※問 7-14 修正内容の説明	水などの「液体」、空気などの「気体」を合わせて「流体」である。この問題は両者の比較をしているので、誤解を生じない表現に改めた。	
131	問 8-10 選択肢③ 最初の α_{rks} の 分子の最終項	$\{\varphi\phi_r\}$	$\{\phi_r\}$
137	問 8-22 問題文の下から 3 行目	$[\Phi_k^{(1)}]$ と $[\Phi_k^{(1)}]$	$[\Phi_k^{(1)}]$ と $[\Phi_k^{(2)}]$
179	問 2-12 上から 5 行目	$[\bar{K}] = [\Phi]^T[K][\Phi]^T$	$[\bar{K}] = [\Phi]^T[K][\Phi]$
188	問 4-10 解説の最後の部 分、解答	このとき基礎部との接合部となる節点は拘束せず、基礎部の変位を与える必要がある。 解答 ③	さらに基礎部の変位から決まる力を節点 1 に与えているので、基礎部の変位は 0 に拘束して良いことがわかる。 解答 ②